

喜多方・まちづくり塾開講

地元中高生と意見交換、結ぶわがまち未来像

ジュリーの余韻さめやらぬ先月26日、喜多方Project有志は18きっぷを握り締め、会津を目指しました。

今月2回目となった訪問の最大の目的は、翌27日から開かれたまちづくり塾。この地元中高生を迎えてのワークショップは、小田付郷と喜多方の未来像を若い世代にも考えてほしいと、地元・小田付町衆会と東大チームの柴田・鄭・横田を中心に、春からプランを練ってきたもので、再生した町内の古い空き蔵を舞台におこなわれました。

貴重な夏休みを使って参加してくれる学生たちに、とにかく「楽しく」をテーマに塾コンテンツを展開。地元の方々の協力を得ての「蔵見学」や「バーベキュー」などを通して喜多方の「蔵」と「まち」を見つめ直します。



塾生は商業高校の女子高生5名+中学生1名+先生(!)2名の計8名。ここから、2グループに分かれ、学生が考える理想のまちづくりについて議論(というか、座談)をおこないました。「『まちづくり』ってなんだろう?」という難しい問いに、最初は議論も進みあぐねていましたが、「好きな場所」「あったらいい場所」のイメージを膨らますことで、自分達の町の未来像と、それを実現するプランがぼんやり描けてきたようです。

いまのところ、最終成果物として「まちづくりMAP」や「イメージスケッチ・模型製作」を考えていますが、参加者のやる気は高く、予想以上のクオリティも期待できます。



▲最初は少し堅かった雰囲気も、和気あいの話し合いやバーベキューパーティを通して、非常にフレンドリーに。

今回のワークショップの舞台である蔵は、7月初め、前回訪問の際に、東大チームも参加して大掃除を行ったもの。詰め込まれた玉石混合の骨董の上、50年間の埃がたまっていた内部は、本棚や机・ゴザが敷かれ、品のある空間に生まれ変わった。ほかに現在、週1回で「絵本の読み聞かせ会」が行われているが、他の利活用方法も検討中。

喜多方Projectメンバー(D1永瀬・M1鄭・奥田・横田・吉田)にとっても、地元の学生の意見を聞いたことは貴重でした。彼女らは、学校を舞台に、まちを移動空間として捉えていました。普段の暮らしから距離を置いて、「まち」や「蔵」を改めてゆっくりと見学したことは、学生にとって、とても重要なことだったと感じています。



さて。メンバーには「理想の場所のイメージ」と「提案したい小田付の場所」を見つけてくる、という宿題が課されました。次回の塾開講は8/26・27の2日間。探してきた2つの「空間のイメージ」をここでうまくリンクさせられるといいですね。



text_Ishii Kosuke
Yokota Shunsuke (M1)
photo_Okuda Hiroko
Yoshida Taku (M1)

期末ジュリー・夏本番

切り拓け、新たな研究の地平

夏学期の最後を締めくくるジュリー。研究室外に自分の研究成果を発表し、フィードバックを得ることのできる貴重な機会である。本学期のジュリーは7/25・26の2日間に渡って行われ、都市デザイン研からは修士18名・博士5名の計23名が研究成果について発表を行った。

また、大谷・金・チーの3名は修士生活の集大成である論文を執筆完了。本発表をもって、審査を無事通過した。

text_Ishii

一日目
7/25 (火) 9:00~

<ジュリー発表者>
修士：後藤・鄭・石井・伊藤・奥田・塩澤・筒井
横田・吉田・ボンサン・ファズリ
博士：永瀬・馬場・宋

M1が多くを占めた1日目の発表。ジュリー初陣組からは「どこまで調べ、どう伝えればいいのか、勝手が分からず、非常に緊張した」という意見も聞かれた。とはいうものの、総じて発表内容のレベルは高く、辛口の教授陣をうなずかせるシーンもしきりに見られた。

二日目
7/26 (水) 9:00~

<論文審査発表者>
修士：大谷 剛弘：「近隣型商店街における地域貢献型事業の可能性に関する研究
~地域公共体としての商店街組織に着目して~」
金 宗範：「韓国式中高層集合団地沿いの街路活性化に関する研究」
リー・クウィン・チー：
"Research on Traditional Village Center and Its Transformation Process"
-A case study of Tu Liem suburban district-

<ジュリー発表者>
修士：江口・柴田・鈴木・竹山・早坂・三澤・楊
博士：林・韓

今学期に入って、3度の研究室会議を重ね、年度末の完成に向けて内容を詰めてきたM2。既にアンケート・事例ヒアリング調査などによるデータ集めは着々と実を結びつつある。修論審査・博士ジュリーの発表は、さすがの内容の充実ぶり。精力的に行われた調査の集積も、明快な論理展開も、後続の院生がお手本とするにふさわしいものだった。



▲計画研・小泉助教の前で発表をおこなうファズリM1。

自由が丘コンペ・第2回WS 9才画伯とまちづくりのアイデア練る

小学生が画用紙に描いた自由が丘の未来像を、大学生の手で実現可能なプランに作りあげる、という自由が丘コンペ。前回のWSでは、東大チームは、9才の女の子・中園桃子ちゃんの絵を選抜。この絵をもとにまちづくりプランを描くこととなった(31号参照)。



▲絵をもとに作り上げた自由が丘駅模型

吉田 拓 (M1)

M1有志で構成される”自由が丘コンペチーム”は、7月23日、「『みらいの自由が丘』駅とまちのワークショップ」へ参加した。今回のWSの目的は小学生と大学生・大学院生との顔合わせで、我々も桃子ちゃんとの対面が叶った。

大学院生に囲まれて最初は多少緊張気味だった桃子ちゃんも、ポンサンらの笑顔を足がかりに次第に打ち解けてくれた。今回の我々の目標は、まず桃子ちゃんと仲良しになり、そして彼女の頭の中にある構想をさらに引き出すことだった。具体的には、我々はポンサンの用意した模型や粘土を用いて実際に桃子ちゃんの話の聞こえと試みた。結果として、模型を用いたブレインストーミング(粘土遊び!?)を通して桃子ちゃんと親睦を深めることには成功し、また構想をさらに引き出すという課題も達成できたため、今回のWSは概ね成功したと言って良いだろう。何よりも、我々の心に残っている桃子ちゃんと過ごした楽しい一時の余韻こそが、その事を物語っていよう。



東大チームメンバーと今回の主役・中園桃子ちゃん(右から2人目)。

他の小学生が保護者同伴の中でワークショップに参加する中、彼女は果敢にもひとり来訪。

最終プレゼンは10月24日!

都市企画小委員会特別講演会 -まちづくり三法の改正を考える-

まちづくり三法改正に関する特別講演会が、7月28日に実施されました。三法改正に取り組まれている国土交通省の明石達生氏を講師として迎え、司会を西村教授が務めました。まちづくり三法の改正は、今後の中心市街地のまちづくりの方向性に非常に大きな影響を与えるものと予想され多くの注目を浴びていますが、その担当者の方に講演していただけるということで、この貴重な機会にお邪魔させていただきました。

1時間半という限られた時間の中でしたが、さすがに直接手がけている方の説明には迫力と説得力があり、現場の抱えている様々な問題点なども交えながら、かつユーモアも織り交ぜつつ、臨場感ある講演をお聞きできました。

結局、参加していた学生は2人でしたので、専門家に囲まれかなり緊張しました。現在進行の課題を目の前に、刺激的な会話が繰り広げられ、三法が改正されたこれからは多くの都市にとって勝負ののだと感じました。



▲噂によるとオフレコの話も多かったとか...

text&photo_Shiozawa

池田祥氏・結婚披露宴二次会 OB・OG集まり祝いの宴

中島 直人 助手

去る7月15日夕刻、神田・学士会館(登録文化財)にて、2004年度修士修了のOB池田祥氏の結婚披露宴二次会が開催されました。自由学園明日講堂(勿論、こちらも登録文化財)での披露宴から出席していた同期OBの大野友平氏、岡本祐輝氏、小林有吾氏に加えて、野原卓、中島直人両助手、会社の上司でもある中尾俊幸氏、そして新婦の親友である吉田聡子氏ら研究室OB・OGが祝いに駆けつけました。そう、新婦は同じく都市工OGの才媛・愛(旧姓宮本)さんです。



馴れ初めは谷中でのまちづくり活動、その後もイギリスやアメリカのまちづくりNPO調査を通じて愛を育んできたそうで、まさに都市工ならではのまちづくり夫婦です。普段は無口で売っている(?)池田氏ですが、二次会では付き合い出す際の新婦の巧みな誘惑

まで大胆に公開してしまい、年上の新婦が顔を赤らめる場面もありました。アットホームな雰囲気の中、集まったOB・OG一同、嬉し羨ましの気分で、お二人の門出を心よりお祝いしたのです。

新宿景観Pおさらい街歩き 8月再始動に向け、確かな手ごたえ

筒井 直央 (M1)



7月30日、6月初旬に幕を下ろした新宿プロジェクト第1クールの「おさらい街歩き」に行ってきました。午前9時に目白駅に集合したメンバーは野原助手、D1永瀬・中島 M2坂内 M1後藤・奥田・塩澤・平林・ポンサン・横田・筒井。梅雨明け直後の厳しい日差しの中、まずは落合地区を西へ西へ。上落合・下落合・中井の各地区を見て回りました。暑さと坂道にいっぱいの人、あらためてゆらぎを感じる人、あすればよかった、こんなところもあったのね、とさらに学ぶ人。なにより各地区担当者による町の歴史、地形などの詳細な説明が、第1クールの成果を物語っていました。充実のおさらい街歩きです。

高田馬場で昼食後、中島助手、D3岡村、M1吉田が合流。早稲田駅から今度は単筈地区を東へ東へ。榎、牛込台地、市谷、飯田橋、神田川畔を見て回りました。ゴール地点、神楽坂では第1クールと8時間に渡るこの街歩きの慰労を兼ねて乾杯☆

8月からは、落合第2地区、四谷地区を対象とした新宿プロジェクト第2クールがいよいよ始まります。



▲牛込台地の住宅地を歩くまちあるきチーム

第2クール(～8月22日)の詳細は次号掲載予定です。

編集後記

最近、ふと研究室を見渡すと、あれれ、みなさんやけに色が黒い。理由はバカンス...ではなく、いうまでもなく炎天下のまちあるきが続いているせいですね。作業に追われる日々では、遠い海、遙かな山。なかなか旅行に行けないけれど、地図を片手に歩きながら感じる、陽光とミンミンゼミのリズミカルな鳴声。今年は東京で夏の到来を実感しました。

さて、7月下旬期のこのマガジンは、はじめの時期はジュリー準備と重なっていたこともあり、本号のニュースは発刊直前のもが多く、記事をそろえるのは大変でした。時間がなくて「いらち」になる自分。そのしつこい催促をいなしながら、記事や写真を提供し、製作に協力して下さったみなさまには本当に感謝しております。

text_lshii